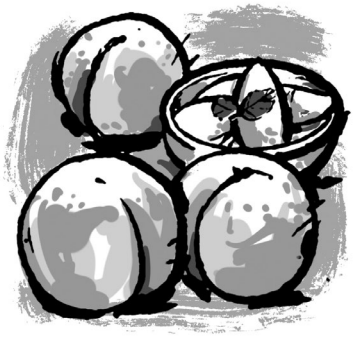
今週の
倫理

2024.7.13～7.19

7月のテーマ　｜　決めつけない

1394号

社長の真心が部下の個性を引き出す



自分自身が相手にどのような心を向けているかで相手の見え方が変わります。

江戸前海苔の卸問屋を経営するS氏は、女性社員のAさんの勤務態度に頭を悩ませていました。遅刻が多く、何度注意しても改善されません。また、終業時間を過ぎても帰らず、急ぐ仕事でもないにもかかわらず、残業を繰り返しています。

あるときS氏が「小さなお子さんを預けているのだから、早く切り上げて迎えに行ってあげて下さい」と声を掛けました。ところが、「定時でタイムカードを切ってから仕事をしています。残業代は発生しないため、誰にも迷惑をかけていません」との言葉が返ってきたのです。S氏はその言葉に呆れてしまいました。

そのようなことが繰り返されるうちに、〈この人はこういう性格の持ち主だ。この人には何を言っても無駄だ。退職してもらう方がよいかもしれない〉と思うようになりました。それからは、Aさんの欠点ばかりが目に付くようになりました。

S氏は所属する倫理法人会のセミナーに参加した際、講師にAさんのことについて倫理指導を受けることにしました。すると講師からは「もっと度量を広げてください。S社長はその社員さんがより良くなるように、成長し向上するよう指導してください」と言われたのです。

度量の小ささを痛感したS氏は〈Aさんは、うちの会社を選んでくれて、私が採用した社員ではないか。自分の子供と同じように成長を願おう。Aさんに入社して良かったと思ってくれるような職場環境を提供していこう〉と心を切り替えたのです。

それからAさんの長所を見つけるよう努めたところ、パソコン操作に詳しく、IT関連の専門知識を有することが分かってきました。S氏はAさんを信頼し、オンライン販売などの重要な業務を任せるようにしたのです。するとSNSを活用した広告やオンライン販売の拡大において、才能を発揮するようになりました。会社はコロナ禍でも売り上げを確保することができ、その成果は同業者から羨望の的となりました。

その頃からAさんの働きぶりに変化が現われました。遅刻は少なくなり、仕事に対する積極性が際立ってきました。営業や配送など、これまで経験のなかった業務も、依頼されると快く引き受けるようになりました。今やチームリーダーとして、会社にとって欠かせない存在となっていたのです。

またAさんは家庭のことも職場で相談するようになりました。事情を知ったS氏は、Aさんの子供を職場で一時的に預かるなど、職場全体でAさんの家庭を支える体制を整えました。その結果、職場が和やかな雰囲気に満ち一体感が生まれていったのです。

〈あの人はこういう人だ〉と心の中で決めつけると、その人の欠点ばかりが目につき、良いところは見えにくくなります。相手に心を開き、関心を持って、相手を知ることから始めることで、良好な人間関係を築いていきたいものです。

え・城谷俊也

一般社団法人倫理研究所法人局